

## 11. 結果

## ①インフルエンザウイルス

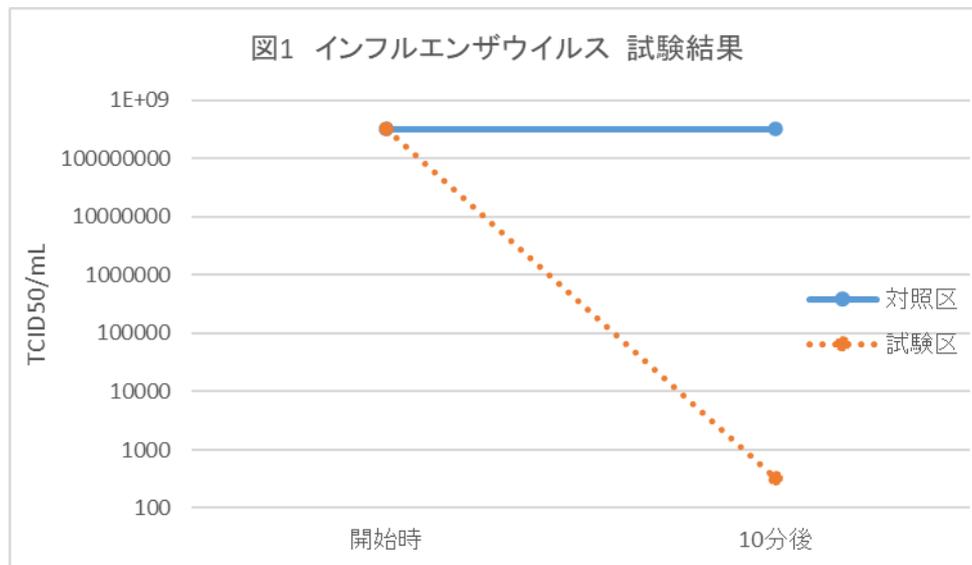
インフルエンザウイルスに対する試験結果を表 1 及び図 1 に示した。

対照区では試験開始後から、試験開始後 10 分までの間にウイルス量の変化は見られなかった( $10^{8.5}$ TCID<sub>50</sub>/mL)。

試験区では開始後 10 分で $<10^{2.5}$  TCID<sub>50</sub>/mL (検出限界未満、99.9999%以上減少)となった。

表 1 インフルエンザウイルス試験結果(TCID<sub>50</sub>/mL)

区	試験開始時	開始後 10 分
対照区	$10^{8.5}$	$10^{8.5}$ (320000000)
試験区	$10^{8.5}$	$<10^{2.5}$ ( $<320$ )



## ②ネコカリシウイルス

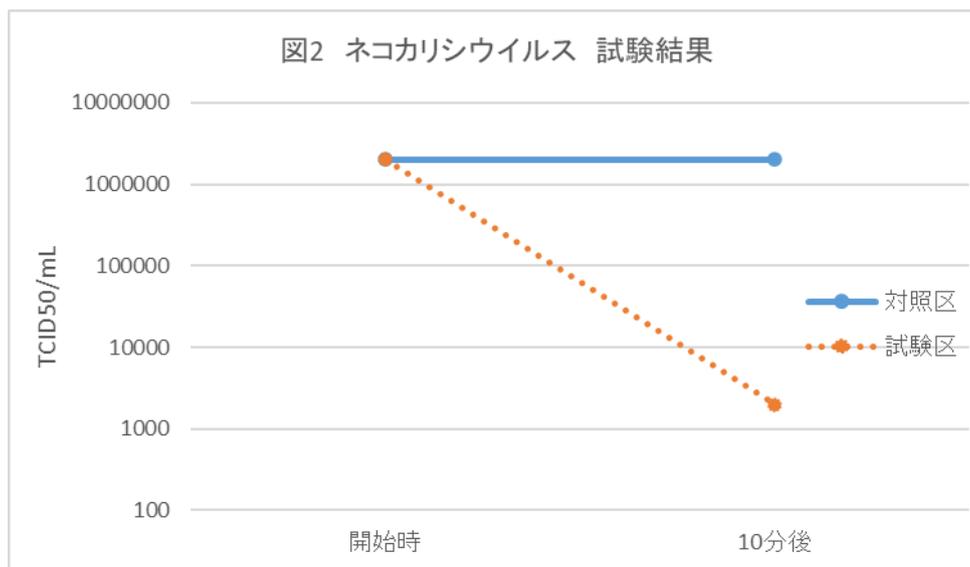
ネコカリシウイルスに対する試験結果を表 2 及び図 2 に示した。

対照区では試験開始後から、試験開始後 10 分までの間にウイルス量の変化は見られなかった( $10^{6.3}$ TCID<sub>50</sub>/mL)。

試験区では開始後 10 分で  $10^{3.3}$  TCID<sub>50</sub>/mL (99.900%減少) となった。

表 2 ネコカリシウイルス試験結果(TCID<sub>50</sub>/mL)

区	試験開始時	開始後 10 分
対照区	$10^{6.3}$	$10^{6.3}$ (2000000)
試験区		$10^{3.3}$ (2000)



## 12. 考察

今回、試験資材のインフルエンザウイルス及びネコカリシウイルスに対する不活化効果試験を実施した。

その結果、インフルエンザウイルスに対しては10分以上反応することで99.9999%以上不活化効果があることが判明した。

また、ネコカリシウイルスに対しては、10分以上の反応で99.9%以上の不活化効果があることが判明した。